

建設発生土の減量について

1 趣旨

建設工事を行う対象地が自然由来重金属のバックグラウンド値が高い地域であっても、対象地の外へ土壌を移動させる行為がなければ、自然由来重金属というものは元来から当該土地の土壌に含まれているものであるため、新たなリスクは生じない。

そのため、自然由来重金属のバックグラウンド値が高い地域では、建設工事の対象地の外へ移動させる土壌を可能な限り減量するため、現場内の埋め戻しや、建設発生土を減量する施工方法などを検討していくことが必要である。

2 建設発生土を減量するための優先順位の考え方

(1) 発生抑制

工法の工夫等により、建設発生土の発生を抑制する。

(2) 現場内利用

発生した建設発生土を現場内で再利用又は再生利用する。

3 減量のための方向性（案）

(1) 減量効果が高い技術や工法について、情報収集に努め、市発注工事に導入するよう取り組む等、より一層の減量を図る。

(2) 今後も減量の取組を続けるため、意識付けの方法を検討する。